

株(くいぜ)を守る

まちぼうけ

- ♪まちぼうけ、まちぼうけ ある日せっせと 野良かせぎ
そこへウサギがとんできて、ころり転んだ 木の根っこ♪
- ♪まちぼうけ、まちぼうけ しめた これから寝て待とか
待てばえものは 駆けて来る ウサギぶつかれ 木の根っこ♪

「まちぼうけ」は、北原白秋作詞、山田耕筰作曲の唱歌(童謡)です。今から約100年前の1924年(大正13年)に、満州唱歌の一つとして発表されました。5年生の音楽の教科書に載っているこの歌には、中国に伝わるこんな話があります。

昔の中国に、畑を耕している農家の人がいました。その畑は荒地で石ころや木の切り株などがあって、耕すのがとても大変でした。

ある日、その畑で一生懸命、畑仕事をしていると、ウサギがすごい勢いで走ってきて、畑の中にある木の切り株にぶつかって死んでしまいました。それを見ていた農家の人は、「これはよかった。自分でウサギを捕まえなくても、自分から切り株にぶつかってくれた。もうけた、もうけた。」と言って喜びました。

それからというもの、農家の人は畑仕事を全くしないで、毎日、畑の切り株を見ていました。ウサギがまた切り株にぶつかってくると思ったからです。でも、二度とウサギが切り株にぶつかってくことはありませんでした。そして最後の7番目の歌詞です。

- ♪まちぼうけ まちぼうけ もとは 涼しい黍畑(きびばたけ)
いまは 荒野(あれの)の箒草(ほうきぐさ) 寒い北風 木のねっこ♪

その農家の人は、国中の人から「おろかな人」と言われました。

世の中には、偶然にうまくいくことがあります。でも、その偶然が続くことはめったにありません。学校の勉強もそうです。勉強をしていなくても、たまたまできたり今のところはわかったりすることがあります。でも、それはそのときだけのことで続くことはありません。何もしないで時間を過ごしていても結果は出てこないのです。毎日せっせと野良かせぎをしないと、畑は荒野(あれの)の箒草(ほうきぐさ)になってしまうのです。

1年の修了が近づいています。これから先日実施した学力検査の結果をもとに、不十分であったところの復習に時間を使うことが多くなっていきます。進学・進級するにあたり、子ども達には学習・生活の面で日々の努力を大切にする子になってほしいと思っています。

